

「知っていた」と答えた人は約4割にとどまりました。
また、「オンライン授業の整備を進めてほしい」「ICTを有効活用し、一人一人に合わせた学びの環境を整備してほしい」という声も上がっています。

「学校に通えなくなり始めたとき、学校に相談しやすかったか」を児童・生徒に調査したところ、「相談しづらい」との回答が約5割を占めました。その理由として、「相談したことがほかの人に知られないか不安だったから」との声が多く上がりました。
このような、児童・生徒が学校に相談しにくい理由を理解し、心情に寄り添った丁寧な支援が必要とされています。

総務省は、文部科学省に対して、これらの課題を踏まえた支援策の推進を求めています。

▼不登校・ひきこもりの子ども支援に関する政策評価<評価結果に基づく意見の通知>
https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/hyouka_230721000167008.html

◇◆ トピックス (2)
文部科学省「令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料」を公表
.....◆◇

文部科学省は7月31日、令和5年度4月に実施された
全国学力・学習状況調査の報告書と調査結果をWebで公表しました。

テストとともに実施された質問紙調査から、
主に「ICTを活用した学習状況」の回答結果を抜粋してご紹介します。

授業でICT機器を「ほぼ毎日活用している」と回答した割合は、
小学校が65.3%、中学校が62.8%で、小・中学校ともに、前年度より7ポイント増加しました。
「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答したのは、
小学校で99.0%、中学校で97.4%でした。

さらに、端末の持ち帰り状況に関して、「毎日持ち帰って、毎日利用させている」
「毎日持ち帰って、時々利用させている」「時々持ち帰って、時々利用させている」と
回答した合計の割合は、小・中学校ともに、前年度より約15ポイント増加しました。

一方、「児童・生徒同士がやりとりする場面で、ICT機器を活用する頻度」を、
「ほぼ毎日」と回答したのは、小学校で16.6%、中学校で12.9%でした。
「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答したのは、
小学校で68.7%、中学校で62.2%でした。

主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行っている学校ほど、ICT 機器を活用している傾向にあることがわかりました。

文部科学省は、GIGA スクール構想のさらなる推進のために、令和 5～6 年度を集中推進期間として、自治体・学校への支援を強化するなど、さまざまな取り組みを実施しています。

▼令和 5 年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料

<https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/index.html>



□【2】情報セキュリティ事故ニュース ～ささいなミスが事故を招く～



★☆ 情報セキュリティ事故の発生状況（2023 年 8 月 3 日調査）

- ☆★ (1) 紛失・置き忘れ：6 件 (2) 誤送信：2 件 (3) 誤公開：1 件
- (4) 不正アクセス：1 件 (5) その他：1 件 (6) 不明：1 件

☆★ >> <https://school-security.jp/leak/>

2023 年 6 月 27 日～2023 年 7 月 31 日に合計 12 件の事故が発生しました。

情報セキュリティ事故の内訳と概要（都道府県名、公表日、組織区分、漏えい経路・媒体、個人情報数）は以下の通りです。

(1) 紛失・置き忘れ

大阪府 2023 年 6 月 27 日 府立高等学校 書類 1 件

大分県 2023 年 7 月 13 日 県立特別支援学校 書類 1 件

埼玉県 2023 年 7 月 20 日 県立特別支援学校 書類 137 件

広島県 2023 年 7 月 21 日 県立高等学校 書類 274 件

広島県 2023 年 7 月 24 日 県立高等学校 書類 80 件

富山県 2023 年 7 月 29 日 市立小学校 書類 33 件

(2) 誤送信

東京都 2023 年 6 月 30 日 国立大学 電子メール 約 10,000 件

東京都 2023 年 7 月 26 日 民間 電子メール 23 件

(3) 誤公開

愛媛県 2023 年 7 月 24 日 県立大学 インターネットサービス・アプリ 29 件

(4) 不正アクセス

学校が「一枚岩」で、同じ方向に教師が向いていないと、難しいからです。

そこで、本校では校務分掌に「ICT活用推進チーム」という組織を、学習ネットワークの本格運用1年目の令和3年度から立ち上げました。そして文字通り、腕に覚えがあるICTに長けた職員をチームに配置しました。日々の教育活動でICTを使うことを、チームメンバーを中心に行うことはもちろんですが、ICTを活用することが、あまり得意ではない、どちらかというと苦手意識がある職員に対しても、チームメンバーが中心となって、校内でこまめなケアができるようにするためのものです。また、「ICT活用推進チーム」は、校務軽減を意識したICT活用も行っています。これらの取り組みは、現在も継続中で、今年で3年目です。今では、元チームメンバーも含めて、多数の職員が、ICT活用で何か困った事があったら、教え合う体制ができています。今年度も新しく仲間になった職員に、富水小のシステムを教え合っています。

このように富水小学校では、令和3年度から継続してICT活用に力を入れています。今回は『当たり前ができるようになる（もしくは活用することができる）「授業外」のICT活用（学校運営）』について、本校が3年前から取り組んでいる実例を、一部交えながら書かせていただきます。まず、ICTを活用した家庭との連携についてです。本校は児童数が500人強、クラス数も支援級を含め26クラスの大規模校で、登校時の欠席・遅刻などの連絡は文字通り猫の手を借りたいくらいの忙しさでした。そこで本校では、一昨年度は「ICT活用推進チーム」が作成した「Google フォームを使った出欠席入力シート」を使用しました。昨年度からは、小田原市が活用している「さくら連絡網」というアプリを使って管理しています。どちらも、保護者が、欠席や遅刻その他連絡などを入力することで、学校内すべての職員が、自分の端末を使って一括で管理ができるものです。本校では、これだけではなく、さらに職員室に80インチの大型モニターを設置し、リアルタイムで出欠席のデータを表示しています。こうすることで、職員室内でも職員がすぐに情報を共有できるようになっています。職員は朝、モニターで自分の担当クラスの児童をチェックし、場合によっては、自分の端末で保護者と連絡を取ることができます。イメージとしては、駅の電光掲示板で発車時刻を見て、自分の端末で乗車したい電車を確認するような感じです。これまでは、出勤してすぐの慌ただしい時間に、保護者からの電話連絡があると、校内放送や内線電話で担任を職員室まで呼び、いちいち連絡を取るなどしたため、伝達漏れのミスなど、職員の多忙感につながっていました。しかし、大型モニターと個別の端末を組み合わせることで、

朝の電話での保護者対応はほとんどなくなり、
児童の登校前に教室にすることができ、備えることができるようになりました。
また、経費削減という意味でもペーパーレスは外せません。
本校では、保護者向けのお便り、例えば給食便りや下校時刻などは、
「さくら連絡網」のお知らせ機能を使って、
お便りを PDF データにして配布するようにしています。
データを送付することで、保護者は自分の情報端末から確認することができます。
保護者からも「下校時刻がスマートフォンでわかっていい。」など
好意的な声を頂いています。

◆ 執筆者プロフィール ◆

時村 健太
小田原市立富水小学校 総括教諭 教務主任
小田原・足柄下地区小学校教育研究会役員

▽ 学校 ICT に精通した先生方の書き下ろしコラム

>> <https://school-security.jp/column/>

……◆◆ 【最新版】「個人情報漏えい事故の発生状況調査報告書」を公開 ◆◆……

ISEN では、6月9日に「令和4年度 学校・教育機関における個人情報漏えい
事故の発生状況」調査報告書（第1版）を Web 公開しました。

>> https://school-security.jp/leak_all/

<事務局>

教育ネットワーク情報セキュリティ推進委員会（ISEN）

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5 浜松町スクエア 2 階（株式会社 JMC 内）

<https://school-security.jp/>

▽ 「教育の情報化や学校情報セキュリティ対策」にご興味をお持ちの方が
いらっしゃいましたら、本メールマガジンをご紹介ください。

メルマガ登録フォーム：<https://fs220.xbit.jp/y592/form2>

▽ 個人情報の取り扱いは下記リンクをご参照ください。

<https://school-security.jp/privacy>

▽ お問い合わせ・配信停止・メールアドレスの変更は、
下記フォームよりご連絡ください。
<https://fs220.xbit.jp/y592/form3>